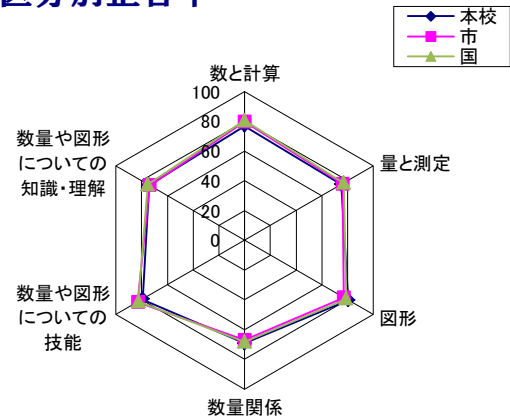


宇都宮市立平石北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

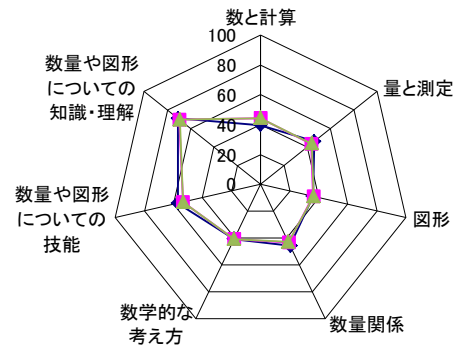
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	76.9	79.9	80.5
	量と測定	75.0	75.9	77.0
	図形	80.6	76.9	78.8
	数量関係	69.4	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	79.4	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	74.2	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	39.8	44.5	44.4
	量と測定	46.1	43.5	43.7
	図形	36.1	36.2	36.3
	数量関係	45.8	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	41.0	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	56.9	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	70.8	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●算数A・Bともに、宇都宮市と全国の平均正答率を約5ポイント下回っている。 ○二つの数の大小関係や分数の乗法、わり算の商の大きさについては、宇都宮市と全国の平均正答率を上回っている。 ●式が表す意味を理解し、説明することは苦手である。	・ドリル学習に取り組み、計算力の向上を図る。 ・定期的にミニテストを実施し、習熟を図る。 ・計算の仕方を覚えるとともに、なぜそのような計算になるのかを考える過程を大切に指導する。
量と測定	●算数Aは宇都宮市の平均正答率とほぼ同じであるが、全国の平均正答率と比べると2ポイント下回っている。 ○算数Bは宇都宮市と全国の平均正答率を約3ポイント上回っている。 ○正方形の縦・横の関係と面積について、きまりを正しく理解している。 ●単位量当たりの大きさを苦手としている。	・人口密度など、単位量当たりの大きさについて既習内容を復習する。 ・平均について復習するとともに、理科や総合的な学習の時間でも調べたことをまとめるときに平均の考え方を活用し、習熟を図る。
図形	○算数Aでは、宇都宮市と全国の平均正答率をやや上回っている。算数Bでは、ほぼ同じである。 ○図形の辺や角など構成要素に着目して、条件に合った図形を作ることができる。 ●直方体の面について、垂直や平行などの位置関係の理解が不十分である。	・定規やコンパスなどの使い方を繰り返し練習し、正確に作図ができるようにする。 ・辺の長さや角の大きさなど図形の構成要素について、具体物を活用して理解の習熟を図る。
数量関係	○算数A・Bともに、宇都宮市と全国の平均正答率とほぼ同じである。 ○割合の意味を正しく理解し、百分率等を使って正確に表すことができる。 ●二つの数量関係を式に表したり、説明したりすることは苦手である。	・文章問題に繰り返し取り組み、問題文の意味を考えながら立式できるようにする。 ・授業では答えを求めるだけでなく、計算の過程や意味を説明する場を設定し、思考力を高める。 ・グループ学習を意図的に取り入れ、友達との話し合いを通して学習内容の理解を深められるようにする。